



堺学講座

大阪府立堺東高等学校
Osaka Prefectural Sakai-Higashi High School

堺の歴史ある地名



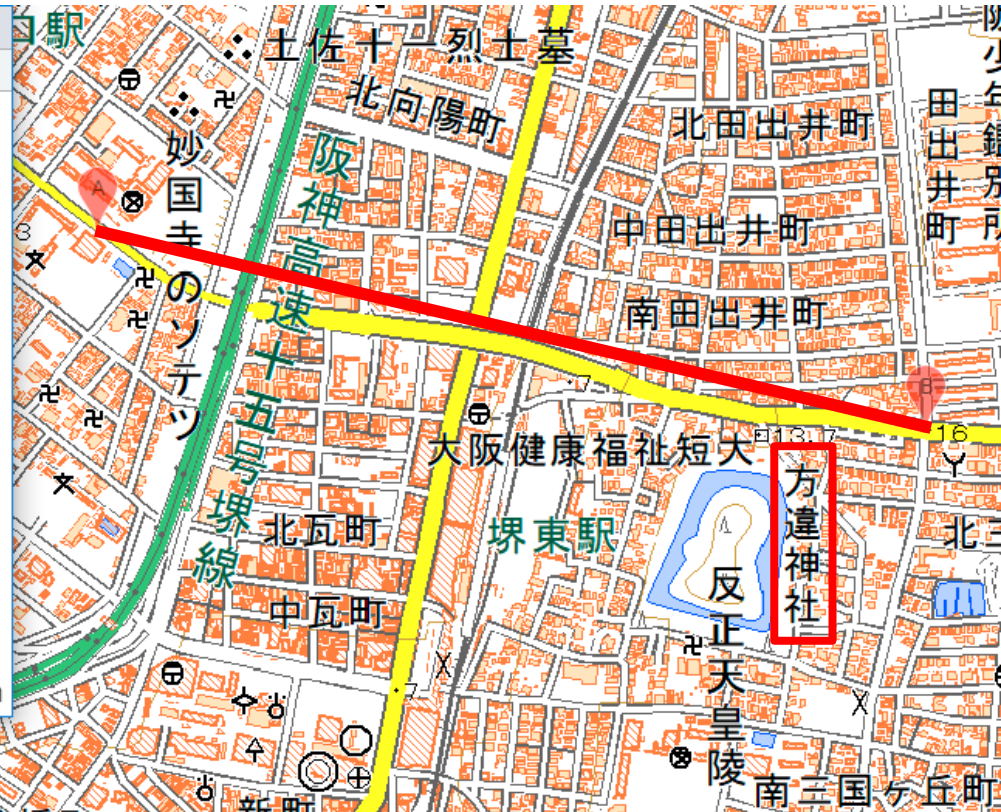
三国丘・堺（堺市堺区）

古代の行政区画「五畿七道」のうち、
摂津・河内・和泉の国境の地が、現在堺区にある
方違神社（ほうちがい・かたたがえ）神社の場所。



三国丘・堺(堺市堺区)

摂河泉三国の国境で、かつ上町断層がつくった
小高い丘なので、「三国丘」という地名となった。
転じて、「国の境目」であるから「堺」。



三国丘・堺（堺市堺区）

現在も常夜灯などにみられる「左海」は、北を上にとすると左が大阪湾なので、このように表記した。



鉄砲町(堺市堺区)

鉄砲(火縄銃)の一大生産地として教科書でも紹介されている堺のまち。

南海本線七道駅付近に「イオンモール鉄砲町」がオープンして知名度もあがったが・・・



鉄砲町(堺市堺区)

・・・実は、鉄砲町は実際に鉄砲鍛冶の職人が多く暮らしていた場所ではなく、江戸時代にできあがった鉄砲を試し撃ちする場所であったことから「鉄砲町」という地名になった。
七道駅前にそのことを示す碑が残されている。



熊野(堺市堺区)

「熊野」と書いて「ゆや」。とても読めない。
・・・諸説あるが、熊野街道沿いの旅籠があった堺。
境王子(参詣途上で儀礼
を行う場所)も近くにあった。



熊野(堺市堺区)

街道沿いで旅籠もあったので
風呂屋(湯屋)が多く立地していたことと、
そこからついた地名の「湯屋町」に熊野神社が
あったことで、「熊野」と書いて「ゆや」と
よむようになったとか。



百舌鳥(堺市北区)

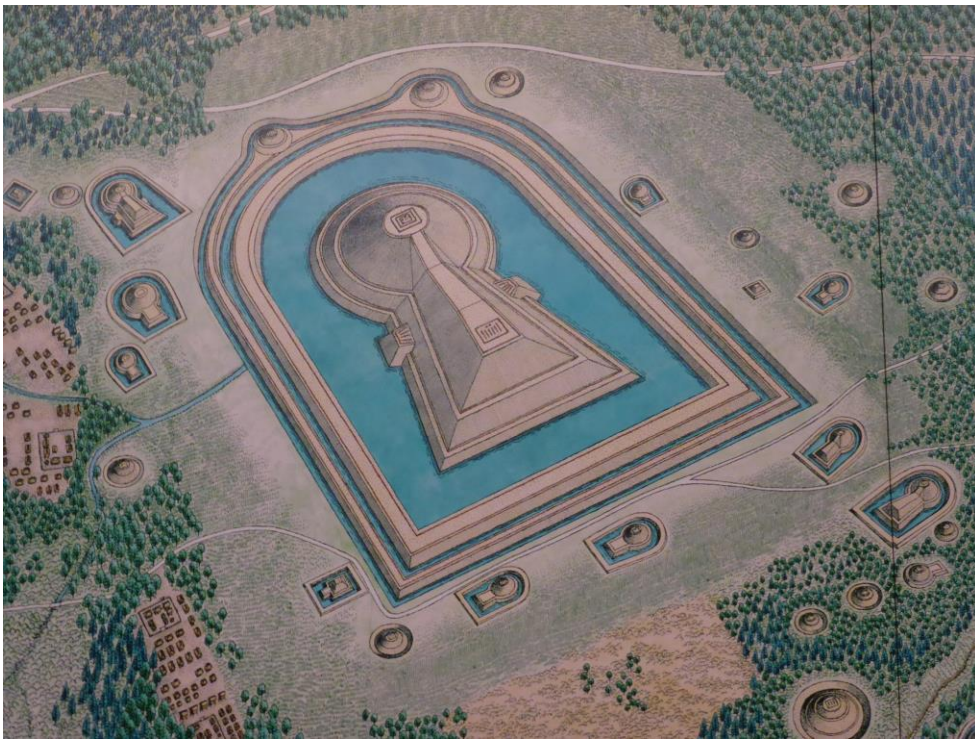
「もず」と平仮名で書くほうが、漢字で書くより文字数が少なくなるめずらしい地名。

「百舌鳥古墳群」で有名だが、その由来は…



百舌鳥(堺市北区)

仁徳天皇が石津川近くの視察にきたとき、鹿が暴れながら向かってきた。…と思ったら、急に鹿が倒れた。見ると、鳥のモズが鹿の耳を食い破り、鹿が息絶えていた。暴れ鹿からモズが仁徳天皇を救った場所、という伝説から。



←仁徳天皇陵(大仙古墳)の
築造当時の姿。
正式な名称は、
「百舌鳥耳原中陵」
(もずみみはらのなかのみささぎ)
と、伝説に沿った名前。



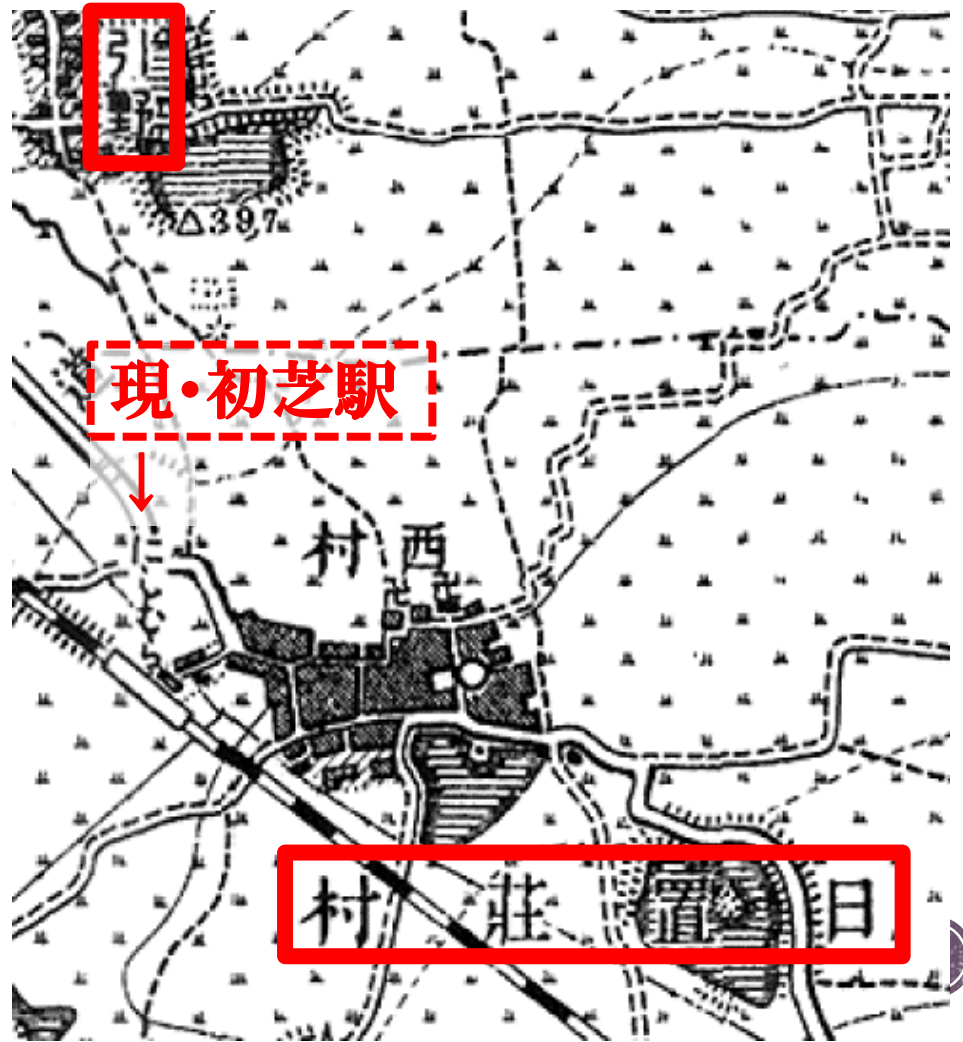
日置荘・引野(堺市東区)

河内鑄物師(金属加工集団)が根拠地とする
丹比(たじひ、現・美原区)とともに、大仏の修築
から鍋・釜・鍬・鋤などの製造を行っていた。
「たじひ」も、金属加工という意味で、堺で有名な
「かじ(鍛冶)」(鉄砲、打刃物、自転車)に
通じるところがある。



日置荘・引野(堺市東区)

おそらく、河内鑄物師は古墳築造時に活躍した
渡来系氏族の子孫
であり、平安～鎌倉
時代の最盛期には
このあたりに多数の
工房がひらかれた。
鉄を溶かすための
「火吹き」が「ひき」と
なまったらしい。



大饗(堺市美原区)

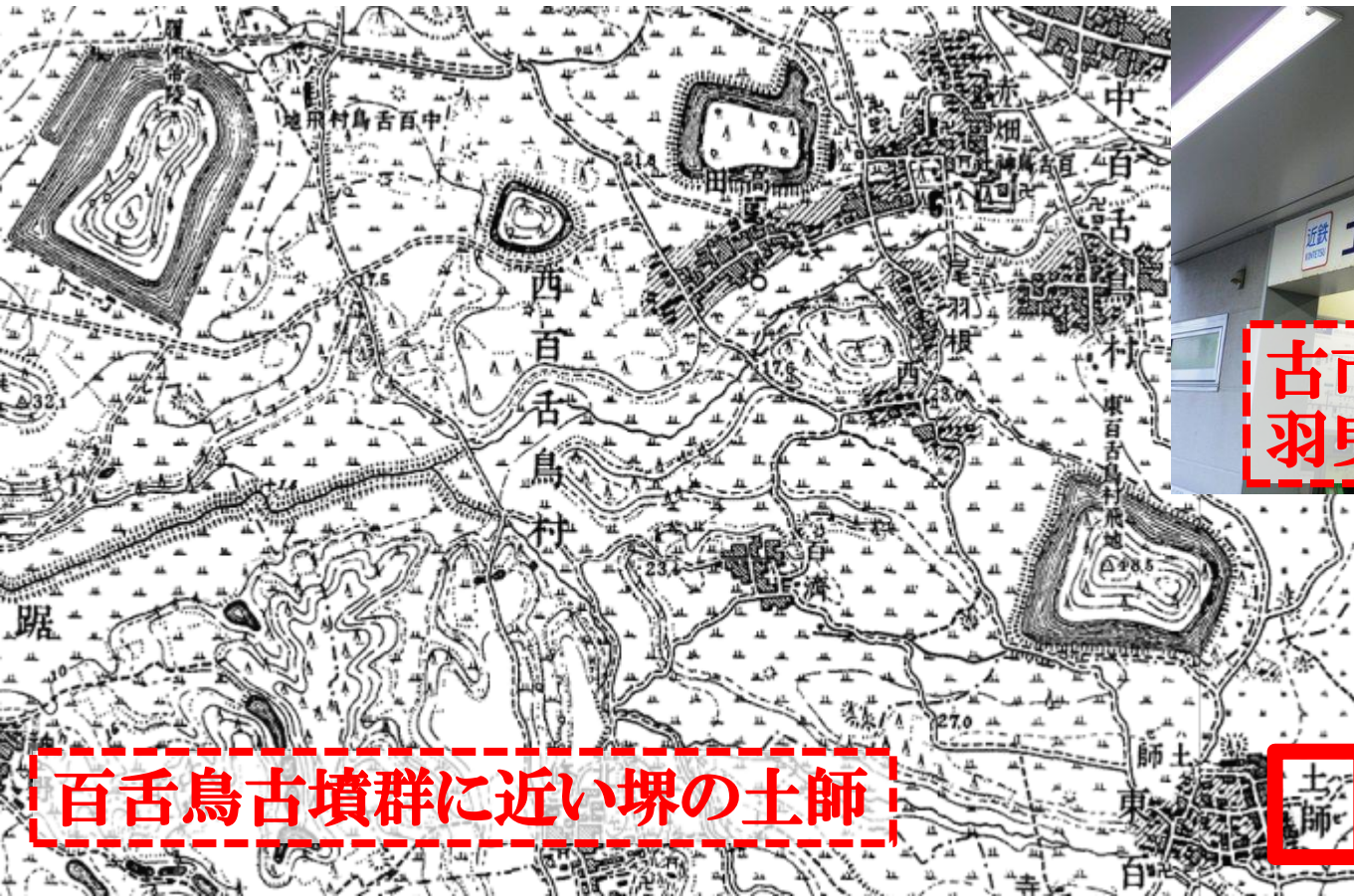
「おい」とよむ難読地名。

称徳天皇が紀伊国行幸の帰り、ここで大きな饗宴(=宴会のこと)をひらいたのでこの地名が生まれた、とされている。



土師(堺市中区)

土器・陶器製造集団の土師氏の根拠地の一つ。
百舌鳥古墳群にも近い。古市古墳群の近くにも
「土師(はじ)」の地名が残る。

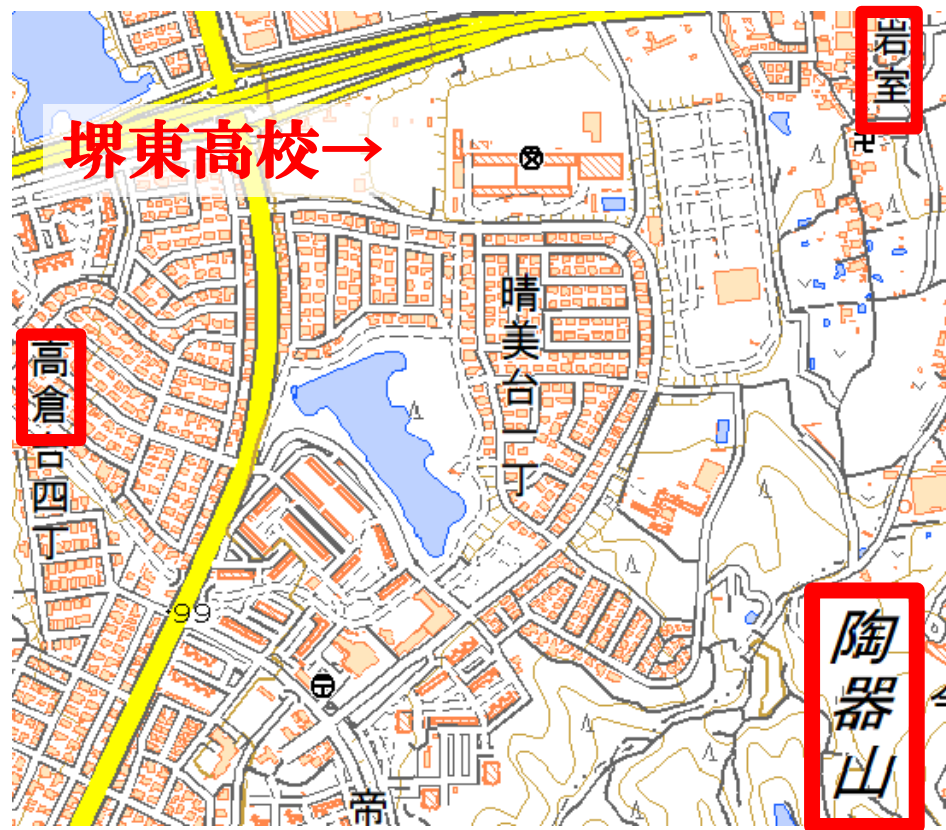


百舌鳥古墳群に近い堺の土師



陶器山(堺市南区)

土師氏の工房が多くあった場所。古くは「すえやま」と呼ばれ、古墳の埴輪や須恵器を製造していた。周辺に窯や保管庫を示すと思われる「室」「蔵」の地名が多くある(岩室,釜室,高蔵,富蔵,片蔵など)。



発掘された陶邑窯跡群の
窖窯(あながま)



日部(堺市西区)

地名は「草部」だが、神社は「日部」と書く。
河内鑄物師の末裔として草部(くさかべ)氏があり、
関係がありそうだが不明。仁徳天皇の子である、
大草香皇子と草香幡梭姫皇女を世話した集団が
住んでいたと伝わる。
「日」を「くさ」とよむ
のは、「草」の字の
「草冠」と「十」を略し
て「日」と書いたから。



上神谷(堺市南区)

「にわだに」とよむ
超難読地名。

日本武尊の魂が白鳥と
なって、現在の大鳥大社
に降り立ったと伝わるが、
その直前に上神谷に
降り立ったらしい。



上神谷(堺市南区)

昔は神のことを「ミワ」(奈良の三輪山のことらしい)とよんだので、「上神(かみつみわ)」とよんでいた。時代とともになまっていき、「かみつにわ」、さらに「かみつ」を略して「にわ」と変化した。

